2014 FIFA WORLD CUP Brasil

点取り屋 世界一は誰だ

FIFA WORLD CUP Brasil
あす準決勝

【ベロオリゾンテ＝細井伸彦】サッカーのワールドカップ（W杯）ブラジル大会は8日午後5時（日本時間9日午前5時）から準決勝が始まり、6度目の優勝を狙うブラジルと史上初めて4大会連続で4強入りしたドイツが対戦する。9日午後5時（同10日午前5時）からは7大会ぶり3度目の制覇を目指すアルゼンチンと、2010年南アフリカ大会準優勝のオランダがぶつかる。優勝候補に挙がる強豪4チームが勝ち残った準決勝。果たしてどんなサッカーを展開するか。

ロドリゲス6発 逃げ切りなるか

いずれ劣らぬ強豪4チームに絞られた優勝争いの一方で、得点王争いの行方からも目が離せない。6ゴールのロドリゲス（コロンビア）が頭ひとつ抜け、メッシ（アルゼンチン）とミュラー（ドイツ）が2点差で追う展開。栄えある「ゴールデン・ブーツ」を獲得するのは誰か―。

タイトルの最短距離にいるのは、今大会で一躍ブレークしたロドリゲスだ。5試合連続ゴールは史上11人目。特筆すべきはシュート精度の高さで、17本のうち16本が枠をとらえた。決勝トーナメント1回戦のウルグアイ戦で度肝を抜いた胸トラップからのボレーシュートは、今大会のベストゴールとも評価される。

1974年西ドイツ大会から2010年南アフリカ大会までの過去10大会を振り返っても、6ゴールを挙げて得点王になれなかった例はない。残り2試合。チームが姿を消して上積みはできないが、逃げ切りの可能性は十分だ。

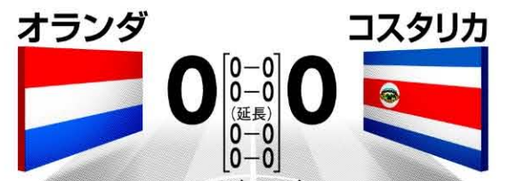
これに待ったをかけるのはメッシとミュラーだ。4年前は無得点で南アフリカを去ったメッシだが、今大会は圧巻のパフォーマンスを披露する。代表では3度のハットトリックを含め2得点以上が7度と「固め打ち」はお手の物。母国の英雄マラドーナも縁がなかったW杯得点王の称号は、ぜひともほしいタイトルだろう。史上最年少の20歳で前回得点王に輝いたミュラーには、史上初となる2大会連続得点王が懸かる。

同じく4得点で2位タイにつけるネイマール（ブラジル）は、ケガによる離脱が惜しまれる。3ゴールのファンペルシー、ロッベン（ともにオランダ）にも可能性は残されているが、状況はやや厳しい。

ロナウド（ブラジル）の持つ通算15ゴールの最多得点に並んだクローゼ（ドイツ）にも注目が集まる。36歳のベテランが、4度目のW杯で金字塔を打ち立てるか。

（細井伸彦）

▽交代【ア】ペレス（前33分、ディマリア）パラシオ（後26分、ラベッシ）ガゴ（後36分、イグアイン）【ベ】ルカク（後14分、オリジ）メルテンス（後15分、ミララス）シャドリ（後30分、アザール）
▽警告【ア】ビリア【ベ】アザール、アルデルウェイレルト



▽交代【オ】レンス（後31分、デパイ）フンテラール（延後1分、マルティンスインディ）クルル（延後16分、シレッセン）【コ】ウレニャ（後21分、キャンベル）マイリー（後34分、ガンボア）クペロ（延前7分、テヘダ）
▽警告【オ】マルティンスインディ、フンテラール【コ】ディアス、ウマニャ、ゴンサレス、アコスタ

得点ランキング（準々決勝終了時）

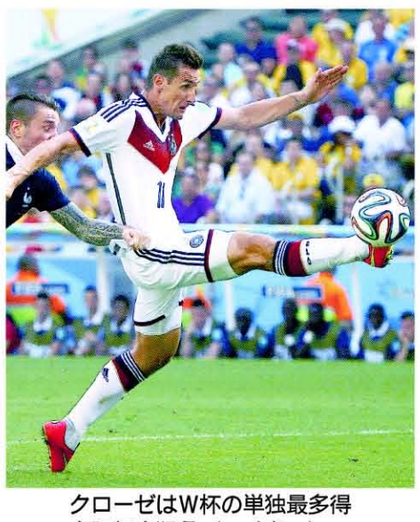
1位	ロドリゲス	（コロンビア）	6※
2位	メッシ	（アルゼンチン）	4
	ミュラー	（ドイツ）	4
	ネイマール	（ブラジル）	4
5位	ファンペルシー	（オランダ）	3
	ロッベン	（オランダ）	3
	ベンゼマ	（フランス）	3※
	シャキリ	（スイス）	3※
	E・バレンシア	（エクアドル）	3※

※はすでに敗退

グラフィック：森口友也

クローゼ「一番になりたい」

36歳、W杯歴代最多16ゴール目狙う



クローゼはW杯の単独最多得点記録を狙う（ロイター）

W杯に新たな歴史が刻まれようとしている。ドイツのFWクローゼ(36)は、今大会の1得点を含めW杯15ゴールで元ブラジル代表のロナウドと並んで歴代トップタイ。「届くところまで来た。一番になりたい」と単独での歴代最多得点者に色気十分だ。

初出場の2002年日韓大会と06年ドイツ大会で各5ゴールを挙げ、06年大会は得点王。10年南アフリカ大会でも4ゴールを積み重ねた。まだ母国に優勝をもたらせていないが、4大会連続で準決勝進出へ導く原動力となってきた。

W杯を控えたシーズンは故障に苦しんだ。昨年9月に右足の手術を受け、11月には右肩を脱臼、ことし4月も左太ももの肉離れ。それでもリーグ戦出場25試合で7ゴールと最低限の結果を残すあたりはさすが。

年齢もあり自身も「これから2年以上、最も高いレベルでプレーするのは難しい。最後のW杯になるであろう今大会は100%の状態に持っていきたい」と並々ならぬ意欲を燃やしてきた。

派手さはないが、ピッチの上では勝負強さをいかんなく発揮する「ゲルマン魂の継承者」である。歴代最多得点記録を塗り替えられれば、1990年イタリア大会以来の頂点も夢ではない。（奥山次郎）

勝負決める「気持ちの強さ」

川口能活の チェックEYE

トーナメントで力を発揮する条件は「九死に一生を得る経験をしたか否か」だと考えている。負けを覚悟するような厳しい戦いをモノにすると、チームに「やれるんだ」という自信がよみがえり、追い込まれる展開でも力を出せる。

その観点から予想すると、決勝はブラジル―オランダか。ブラジルは決勝トーナメントでチリ、コロンビアと、互いの戦術を知り尽くす南米のくせ者を連破した。ネイマールを失い、主将のチアゴシウバも出られないが、非常事態は団結するきっかけにもなる。選手は「ネイマールのために」とまとまり、勝負に徹して戦うだろう。

ドイツは最も〝無風〟で勝ち進んできた印象だ。インフルエンザ感染はあったがGKノイアーの安定したプレーもあり、負けを意識した戦いは皆無ではないか。開催国との準決勝は完全敵地の雰囲気だけに、勝負強さには不安が残る。

オランダは終了間際にGKを交代してPK戦を制した。W杯でPK要員のGKを起用する光景は記憶にない。監督の采配と、紙一重の修羅場を勝ちきったチームの自信は大きい。

アルゼンチンはメッシ頼みから抜け出せない。ディマリアの負傷で重要な前線の人材も失った。ただ準々決勝のベルギー戦では早い時間に先制し、したたかに勝ちきったように試合巧者。オランダ相手に先制すれば決勝もみえる。

W杯は技術的に世界最高峰の戦い。最終的に勝負を決めるのは「気持ちの強さ」ではないか。

（1998・2002・06・10年W杯日本代表、J2岐阜GK）

「観る達人」瞬時に状況把握

スターは何故美しいのか

エジル ドイツ

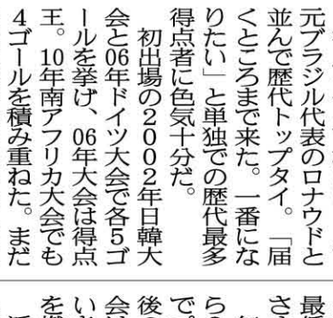
目の前に人さし指の腹を向けてください。自分の指紋が巻いているか、流れているか、と問われたら、われわれは指紋に焦点を当て、一点集中の目使い（見方）をする。このとき、一点にとらわれ、周囲や奥行きの状況が分からなくなっている。指紋の形にとらわれずに、ぼーっとした目使いをすると、周囲や奥行きの状況が分かる。

ドイツ代表にフクロウという愛称の選手がいる。その名はメスト・エジル。ベスト8をかけたドイツ―アルジェリア戦の延長後半6分。自陣のゴール前からアルジェリアがスローイン。ボールをキープしたアルジェリア選手が中央に向かってパスを出そうとした。パスコースには2つの選択肢があった。縦パスと横パスだ。エジルは首を右に振って縦パスの受け手をみた。しかし、心の目（注意）は横パスを受ける左後方の相手にひそかに注がれていた。

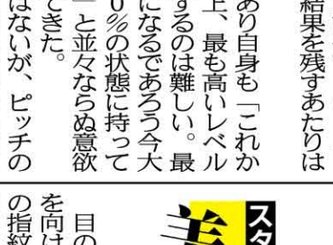
横パスの受け手は、エジルが自分に気付いていないと思ったであろう。エジルは縦パスを受ける相手をみた後、そちらに体を向けて走りだしたからだ。そのとき、横パスが出た。エジルはボールに背を向けてボールから目線を切りながらも、時計回りに反転し、横パスの受け手に向かってダッシュした。

相手に目線を向けていないのに、相手の動きが分かっている。なんとも美しいプレーだ。遅れたかに見えたが簡単に追いつき、プレースペースをふさいでしまった。縦パスと横パスの両方に備えてパスの出し手に体を向けていたら、横パスが出た瞬間、パスが出た左方向に反時計回りに目も体も向けてからボールを追うことになる。これで一点集中型の目使いは、宮本武蔵の「五輪書」によると「見の目」という。広く、奥行きまで感じ取る目使いは「観の目」。実は、フクロウの視野角度は人間よりも狭い。眼球も動かない。だから頸部を回して周囲を「見る」。エジルは眼球も顔も動かさないで広く深く「観る」。フクロウのように首を振ることもあるが、観の目で周囲の状況を一瞬のうちに察知する。日本の指導現場では首を振れ、という指導がなされるが、一点集中の見の目ならば何回首を振っても周囲の状況は把握できない。相手をよく「見ろ」、球をよく「見ろ」と教え続けられた日本のサッカー選手の目に映る光景はどうなっているのであろう。W杯の達人たちは「観る」ことの達人でもある。エジルの愛称は、わが国ではムサシと変更しよう。

（小田伸午 関西大学人間健康学部教授―スポーツ科学）



宮本武蔵の「観の目」で状況を把握するドイツのエジル （ロイター）



速攻を仕掛けたいアルジェリア。エジルは目線だけで危険な縦パスの選択肢を消す

欧州勢悲願の南米W杯制覇へ ドイツ&オランダ挑む

1930年から始まったW杯で南米、北中米での開催は過去7度あり、全て南米勢が頂点に立った。W杯の長い歴史が示す「欧州勢は南米、北中米で勝てない」というジンクスにドイツ、オランダが挑戦する。偉業に挑むドイツのDFファンメルスは「敵地でのブラジル戦はサッカー界最大の難関だが、夢をかなえたい」と意欲的だ。

30年の第1回ウルグアイ大会はプロが確立していない時代で、仕事を離れられない選手が多かった欧州勢は4チームだけの参加。フランス、ベルギー、ルーマニアの選手は同じ船に乗り、モンテビデオまで約2週間の船旅だった。順当に地元のウルグアイが初代王者になった。

「マラカナンの悲劇」で知られる50年ブラジル大会は予選を突破したスコットランドなどが参加を見送り、フランスも大会中の長距離移動を嫌って辞退した。決勝リーグ最終戦でウルグアイがブラジルを下して優勝を飾った。62年チリ大会はチェコスロバキアが欧州勢として初めて南米で決勝にたどり着いたが、力尽きてブラジルに1―3で完敗した。

70年メキシコ大会は欧州から南米の3倍の9チームが参加した。だが、猛暑と標高の高さが前回覇者のイングランドなど欧州勢を苦しめ、決勝に進んだイタリアもブラジルに完敗した。

78年大会は決勝で開催国のアルゼンチンにオランダが敗れ、86年メキシコ大会はマラドーナを擁したアルゼンチンにイングランドや西ドイツが屈した。94年米国大会は中継の都合で暑い日中の試合が多く欧州勢は苦戦。PK戦となったブラジルとの決勝でイタリアが屈した。

今大会も日程面では開催国のブラジル、暑い北東部での試合が一度もなかった点でアルゼンチンが有利との声が上がる。だが、情報化とグローバル化の進行で欧州と南米のスタイルの差は縮小し、医学的な体力管理の発達で敵地のハンディは消えつつある。ドイツのMFシュバインシュタイガーは欧州勢悲願の南米でのW杯制覇に「大きな挑戦だし、光栄」と闘志をかき立てた。

（共同）

W杯決勝トーナメント

※日時は日本時間

ブラジル [A組1位]
1次結果 ○3-1クロアチア △0-0メキシコ ○4-1カメルーン

チ リ [B組2位]
1次結果 ○3-1オーストラリア ○2-0スペイン ●0-2オランダ

コロンビア [C組1位]
1次結果 ○3-0ギリシャ ○2-1コートジボワール ○4-1日 本

ウルグアイ [D組2位]
1次結果 ●1-3コスタリカ ○2-1イングランド ○1-0イタリア

フランス [E組1位]
1次結果 ○3-0ホンジュラス ○5-2スイス △0-0エクアドル

ナイジェリア [F組2位]
1次結果 △0-0イラン ○1-0ボスニア・ヘルツェゴビナ ●2-3アルゼンチン

ドイツ [G組1位]
1次結果 ○4-0ポルトガル △2-2ガーナ ○1-0米 国

アルジェリア [H組2位]
1次結果 ●1-2ベルギー ○4-2韓 国 △1-1ロシア

1-1 (PK3-2)
2-1
2-0
2-0
1-0
2-1 (延長)

9日 5:00 ベロオリゾンテ

決勝 14日 4:00 リオデジャネイロ

10日 5:00 サンパウロ

2-1
0-0 (PK4-3)
1-1 (PK5-3)
1-0 (延長)
1-0
2-1 (延長)

オランダ [B組1位]
1次結果 ○5-1スペイン ○3-2オーストラリア ○2-0チ リ

メキシコ [A組2位]
1次結果 ○1-0カメルーン △0-0ブラジル ○3-1クロアチア

コスタリカ [D組1位]
1次結果 ○3-1ウルグアイ ○1-0イタリア △0-0イングランド

ギリシャ [C組2位]
1次結果 ●0-3コロンビア △0-0日 本 ○2-1コートジボワール

アルゼンチン [F組1位]
1次結果 ○2-1ボスニア・ヘルツェゴビナ ○1-0イラン ○3-2ナイジェリア

スイス [E組2位]
1次結果 ○2-1エクアドル ●2-5フランス ○3-0ホンジュラス

ベルギー [H組1位]
1次結果 ○2-1アルジェリア ○1-0ロシア ○1-0韓 国

米 国 [G組2位]
1次結果 ○2-1ガーナ △2-2ポルトガル ●0-1ドイツ

3位決定戦 13日 5:00 ブラジリア

■第703回totoBIG当せん結果■

勝敗区分	1 2 0 1 0 1 2 1 0 1 1 0 1 2		
	当せん金	口数	繰越金
1等全的中	600,000,000円	3	1,457,760,492円
2等1外れ	1,714,902円	32	0円
3等2外れ	39,957円	305	0円
4等3外れ	9,480円	2,569	0円
5等4外れ	1,710円	13,784	0円
6等5外れ	570円	54,870	0円

■第706回海外totoGOAL3当せん結果■

得点区分	2 1 1 0 0 0		
	当せん金	口数	繰越金
1等全的中	29,973円	1,308	0円
2等1外れ	840円	31,156	0円

◉W杯対象くじ売上総額は約59億円　サッカーくじを運営する日本スポーツ振興センターは7日、ワールドカップ（W杯）ブラジル大会を対象にしたくじの売上総額が59億3463万3300円だったと発表した。